



東日本の玄関口 対流拠点として 期待が高まる さいたま市

Business
ASPECT

さいたま市

2016年3月、国土交通省は、「首都圏広域地方計画」を決定した。同計画は、今後10年間の国土形成に関する基本的な方針や目標などを示したもののだが、「対流がもたらす活力社会の再構築」をテーマに掲げているのが大きな特色だ。このうち、「東北圏・北陸圏・北海道連結首都圏対流拠点の創出プロジェクト」では、さいたま市の「大宮」を東日本のネットワークの結節点に位置付けている。東日本の玄関口「大宮」を含めたさいたま市の拠点強化が期待されている。

制作／東洋経済企画広告制作チーム



第8回 **世界盆栽大会** in さいたま
The 8th WORLD BONSAI CONVENTION, SAITAMA CITY

2017
4/27(木) ~ 4/30(日)

さいたま市を基点として 都市がつながる

2016年3月に国が決定した「首都圏広域地方計画」を機に、対流拠点機能としてのさいたま市の役割に、さらに期待が高まりそうだ。同計画では、東京一極集中から対流型首都圏への転換を目指すとともに、東北圏、北陸圏および北海道との結節機能の強化を掲げている。そして、そのスーパー・メガリージョン（超巨大都市圏）の窓口となると位置付けられたのが、さいたま市の「大宮」だ。

東北、上信越・北陸方面からの

新幹線が集結する「大宮」は、西日本との玄関口となる「品川」と並び、東日本からの多種多様なヒト、モノが実際に集結して交流する最初の対流拠点であるとともに、万が一の首都直下地震発生時には首都圏の機能をバックアップする最前線になるとされている。

具体的な取り組み内容も示されている。たとえば「国際的な結節機能の充実」では、各圏域からのヒト・モノ・情報の集結・交流機能を高めるため、大宮の機能向上などを含む交通機関相互の結節機能や成田・羽田空港へのアクセス強化を行う。「対流拠点機能の集積強化」では、

東日本における地域資源の相互活用、観光コンテンツの充実・連携を図るとともに、主要都市間連携の場の構築とMICE（国際会議、ビジネス旅行、イベント）などの対流拠点機能を整備。このほか「災害時のバックアップ拠点機能の強化」、広域交通ネットワークの機能を最大限に活用する「関連インフラの整備等」も取り組みが行われる。

東日本の交通結節点 を通じて企業がつながる

東日本の対流拠点として注目されるさいたま市。ヒト・モノ・情報

が集まる大きな要因は、優れた交通利便性だ。

注目されている大宮駅は、全国のJRの駅の中で、1日の平均乗車人員が総合9位という日本屈指のターミナル駅※。都心へのアクセスはもちろん、東北・上越など新幹線6路線が乗り入れている。

15年3月には北陸新幹線が開業し、大宮駅と金沢駅が約2時間で結ばれ、さらに、16年3月の北海道新幹線の開業により、大宮駅と新函館北斗駅間が最速3時間38分で結ばれている。これらにより、大宮駅を經由する新幹線網は、北海道・東北方面、北陸・長野方面、新潟方面、そして東京方面へと張り巡らされた。

また鉄道網だけでなく、道路網についても特筆すべきだろう。東西にまたがる圏央道は、すでに埼玉県内の区間が全線開通している。このほか、外環道をはじめ、南北に広がる東北・関越・常磐の各自動車道、さらにこれらとつながる首都高速道が広範囲にまたがる道路ネットワークを形成し、各方面への交通アクセスが容易となるなど、利便性がさらに向上。新たなビジネス交流を通して、地域経済の活性化や産業集積が進み、広域ビジネ



西日本の玄関口「品川」に並び東日本の玄関口「大宮」として拠点機能を強化

『首都圏広域地方計画』での大宮の位置づけ

東北圏・北陸圏・北海道を連結する首都圏対流拠点として創出される
スーパーメガリージョンを支える東日本の玄関口

具体的取組内容

国際的な結節機能の充実

- ・各圏域からのヒト・モノの集結・交流機能を高めるため交通機関相互の結節機能を強化
- ・空港アクセスの強化により国際的な連携・交流機能や情報発信力を充実・強化

対流拠点機能の集積強化

- ・東日本の地域資源の相互利用、企業活動を活発化
- ・観光コンテンツの充実・連携を図るため、都市間連携の場の構築とMICE機能など対流拠点機能の整備

災害時のバックアップ拠点機能の強化

- ・立地特性を生かした防災連携拠点の整備促進と首都中枢機能を支える都市機能の充実
- ・TEC-FORCE(緊急災害対策派遣隊)の進出拠点に位置付け
- ・エネルギー供給設備の整備促進等
- ・DMAT(災害派遣医療チーム)の派遣体制の整備

関連インフラの整備等

- ・地域高規格道路など交通インフラ整備の促進

出典:国土交通省「第5回首都圏広域地方計画協議会」資料

交通の要衝として 存在感を増す大宮駅

JR1日平均乗車人員9位を誇る

順位	駅名	合計
1	新宿	約76.0万人
2	池袋	約55.7万人
3	東京	約43.5万人
4	大阪	約42.4万人
5	横浜	約41.1万人
6	渋谷	約37.2万人
7	品川	約36.1万人
8	新橋	約26.6万人
9	大宮	約25.0万人
10	秋葉原	約24.4万人

※出典:JR東日本「各駅の乗車人員2015年度」、JR西日本「データで見るJR西日本2015」、JR東海「乗車人員ベスト10駅(平成27年度)」、JR九州「交通・営業データ(平成27年度)」、JR北海道「平成27年度 駅別乗車人員上位10駅」



※所要時間は目安です。新幹線の利用を含みます。

優れた交通アクセスの魅力もあり、さいたま市ではさいたまスーパーアリーナや埼玉スタジアム2002を中心に数多くのイベントが開かれている。中には世界的なビッグイベントも少なくない。たとえば、「ツール・ド・フランスさいたまクリテリウム」世界最高峰の自転車レース「ツール・ド・フランス」で活躍した世界トップレベルの選手達が競う大会で、すでに同市で4回開催され毎年多くの観客が集まっている。

このほか、16年には「さいたま国際マラソン」が開かれ、一般フルマラソンの部で約1万4000人のランナーが出走した。また2020年の東京オリンピックでは、サッカー(埼玉スタジアム2002)、バスケットボール(さいたまスーパーアリーナ)が開催される予定だ。

文化面としては、17年4月に世界盆栽大会を迎えるにあたり、さ

ス拠点としての強みが増していく。東日本全域をカバーする広域ビジネスを手がけ、さまざまな企業とつながるうとする企業にとつて、多くのメリットになるに違いない。

観光・スポーツ・文化で 世界ともつながる

新都心の中心的存在として 街づくりにも貢献したい

「さいたまスーパーアリーナ」は世界最大級の可動床機構を備え、約6000席のホールから最大3万7000人収容のスタジアムまで、多彩な設定が可能です。「さいたま新都心」駅に隣接しており、音楽・スポーツ・産業・文化など多様なイベントが行われています。立地環境の良さも魅力となり、東日本の各地から人が集まっています。年間の稼働率は80%を超え、点検期間を除きほぼフル稼働という状況です。2016年には、隣接する「けやきひろば」の大規模な改修も行い、バリアフリー化なども進めました。引き続き、さまざま



な人が集まり楽しめる取り組みに力を入れていきます。これからも、進化するさいたま新都心の中心的存在として、街づくりにも貢献したいと考えています。

さいたまアリーナ
代表取締役社長
加藤 容一氏

BCPなどの観点からさいたま市 に本社・研究開発を移転

当社は2015年11月、本社および本社工場をさいたま市内に移転しました。これまで創業の地である東京・早稲田の面影橋に本社工場を構えていましたが、本館が築50年を超え耐震性の問題もあり、BCP（事業継続計画）や従業員の安全確保の観点で移転を決めました。

さいたま市を選んだのは、比較的地盤が安定していることおよび、交通利便性の高さです。特に当社は、埼玉県北部、栃木県、茨城県などに事業所や子会社を有していることから、これらとのアクセスの良さが決め手になりました。



移転を機に、従来の事業部門や会社間の壁を越えた横のつながりも生まれています。グループのシナジーを発揮した付加価値の高い製品づくりを推進できると期待しています。

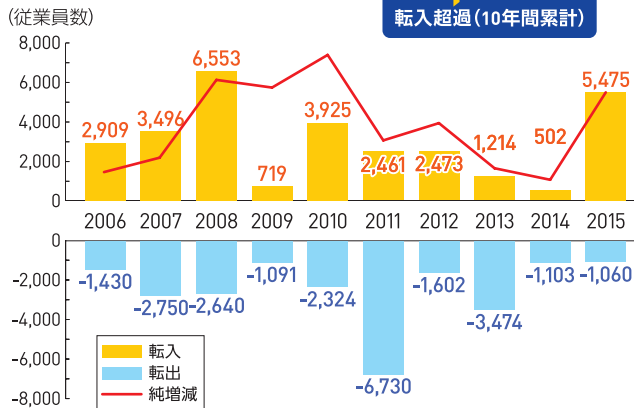
オリジン電気
代表取締役社長
妹尾 一宏氏

企業も人も増えているさいたま市

直近10年間の転入超過企業数・従業員数において、ともに政令指定都市3位の実績

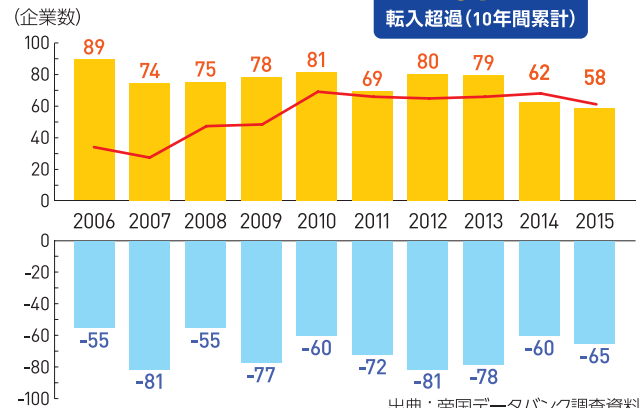
さいたま市の転入転出企業従業員数

5,523人
転入超過（10年間累計）



さいたま市の転入転出企業数推移

61社
転入超過（10年間累計）



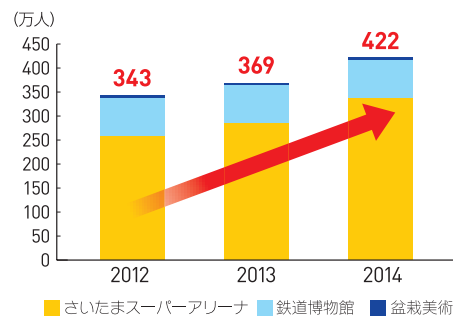
出典：帝国データバンク調査資料

このような特色あるイベントなどによって、ビジネスはもとより、世界のさまざまな人たちの注目を集めるさいたま市。今後も、ヒト・モノ・情報をつなぐ最前線として、さらなる価値を生み出していくだろう。

このほか、鉄道（鉄道博物館）、人形（岩槻の人形）、漫画（さいたま市立漫画会館）など、日本の文化が世代を超えて継承される環境が点在。16年10月には、造幣局さいたま支局開局にあわせた、造幣さいたま博物館もオープンし、早くも人気になっている。

市内施設の来場者数も年々増加

さいたまスーパーアリーナ、鉄道博物館、盆栽美術館における合計来場者数



出典：各施設による集計データ